

BREXIT とポンド

昨日のポンドはその下落よりも戻しの速さが目を引いた。弱含みだったポンドドルは 1.28 台から 1.26 代半ば近辺まで 200 ポイントほど急落したが、すぐに元の水準に戻った。

英国首相が EU と合意した BREXIT の政府案は議会で大差で否決され、ポンドは下落したのだが、合意なき BEXIT の可能性は低いとの見方が強くポンドは買い戻された。

最近の市場での BREXIT とポンドの関係は、合意なしの BREXIT、つまりハード BREXIT 以外は、ポンドにポジティブとの見方が多くなっている。つまり EU との合意に基づくソフト BREXIT や BREXIT の 3 月末の期限の延長、あるいは BREXIT を止めて EU 残留などのケースだ。

政府案が否決され、議会に政治的主導権が移ったように見えるが、その議会では国会議員の四分の三は 2016 年の国民投票の時には EU 残留を支持した。それに今でも大半は合意なき EU 離脱に反対の立場だ。

そこでポンドのショートポジションを持っていた人もショートカバーに走った。とは言ってもポンドの市場の流動性は通常よりも低い。多くの市場参加者はポンドの方向性に賭けるリスクを控えているからだ。それで通貨オプションの取引が盛り上がってきたわけだ。どちらの方向に動いても大きな変動になるとの期待からだ。

最近ではポンドのコールオプションが増えているようだ。まさに現在の市場のセンチメントを反映している。

だが BREXIT 以外の要因に目を移すと、少し前までは BOE の利上げ期待が強くポンドの支援材料になっていた。しかし現在は景気減速の懸念があり利上げ期待は後退した。中国や EU が景気の減速や停滞を示すなど海外要因も無視できない。

ただでさえポンドは難しい通貨の一つだ。変動が大きく簡単に儲かるが、簡単に損もする。それゆえ面白い通貨でポンドに取りつかれてしまう人もいる。BREXIT で増々ポンドの特徴を発揮している。

市場に参入するならストップロスを必ず実行するか、通貨オプションの買いに留めておいた方がいい。